



**日本財団**  
The Nippon Foundation

助成事業

# 療育としての音楽療法実践 新生児難聴・早期療育のためのDVD

## 報告書

### A 赤ちゃんに 初めての音楽！

対象：生後1ヶ月～6ヶ月（お座り前）

### B 赤ちゃん 音とリズムを楽しむ

対象：6ヶ月～1歳半（18ヶ月）

使用書マニュアル

主催：(財)東京ミュージック・ボランティア協会

協力：埼玉県立小児医療センター耳鼻咽喉科



# 目次

## ◆はじめに

坂田英明、赤星建彦…… P 4

## ◆埼玉県立小児医療センター・難聴ベビー外来での音楽療法

村上か乃…… P 5

## ◆「聴覚障害児への療育音楽」～音楽と音振動を楽しく伝える～

(財)東京ミュージック・ボランティア協会 会長 赤星建彦…… P 9

## ◆聴覚障害児の音楽療法のアプローチについて …… P11

### ◆家庭用・音楽療法DVDを楽しくつかうために

音楽療法DVDの目的…… P16

Disc A 「赤ちゃんとの初めての音楽！」 対象：生後1ヶ月～6ヶ月…… P17

Disc B 「赤ちゃんとの音楽とリズムを楽しむ」 対象：6ヶ月～1才半…… P21

## ◆埼玉県立小児医療センター難聴児ベビー外来における療育音楽

### ✦「元気いっぱいKちゃんとの2年7ヶ月を振り返って」

村上か乃…… P25

### ✦難聴児ベビー外来における療育音楽

奥住昌子…… P27

### ✦音楽療法に参加したある親子の記録

内田かおり…… P29

### ✦「フォローアップ音楽療法」卒業にあたって

立花裕美…… P31

## ◆楽器の紹介と使い方…… P32

## ◆赤ちゃんが楽しめる曲目リスト…… P34

### Disc A

おはよう

だるまん

さわってちょこちょ

とけいのうた

大きなたいこ

きらきら星

さよなら

### Disc B

こんにちは

小さなクモ

大きな栗の木の下で

アイアイ

どんぐり ころころ

大きなたいこ

きらきら星

さよなら

## はじめに

埼玉県立小児医療センター・耳鼻咽喉科 医学博士 坂田英明

埼玉県立小児医療センターでは新生児聴覚スクリーニングを1997年より開始。2000年からは新生児聴覚スクリーニングによって難聴が発見された赤ちゃんに対して集団の外来を始めました。診察のほか、補聴器、療育、情報交換の場、そして音楽療法があります。

赤ちゃんは五感からの刺激を受け成長していきます。視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚の中で聴覚は他の感覚器官より一番早くから（胎児の5～6週ころ）から発達をはじめ、一番遅く（1歳半ころ）までに完成される、といわれています。

難聴児の赤ちゃんは聴覚の感覚入力のバランスがくずれ、視覚が優位に脳に入力されてしまいます。五感のバランスを有効活用するため、音楽特に骨振動を生かして、少しでも音環境存在に気付かせ、脳の活性化に役立てよう、というのが音楽療法です。

音楽療法はなぜ良いのでしょうか。音楽を利用して脳を刺激する。大切なのは脳の持っている可塑性を引き出すことです。赤ちゃんの脳の発達に楽しい感覚刺激は有効です。音は高い音から低い音があり、リズムも様々にあり聴覚を刺激します。コミュニケーションをとるのも音楽を使うことが基本にあります。ご両親、家族の楽しい態度もキーワードです。健全な親子関係の構築が一番の鍵となりますので、音楽療法が手助けとなればと願っております。

財東京ミュージック・ボランティア協会 会長 赤星建彦

埼玉県立小児医療センターで音楽療法を開始して7年が経ちました。赤ちゃんの発達は目覚しく一日一日と成長します。

この音楽療法は毎月2回行われていますが、一ヶ月の成長は目を見張るものがあります。約1年で卒業となります。初回と卒業時の体と心の成長、音楽活動時の表情、楽器を持ったり、叩いたり、他の赤ちゃんとの関り、泣いたり、笑ったり、眠ったり、豊かな反応と発達はスタッフ一同、嬉しいものです。

私たちは、この音楽療法活動を家庭で毎日続けていただければ、という願いからDVDを制作いたしました。赤ちゃんは一人では出来ません。お母さん、お父さん、兄弟、家族のどなたかと一緒に歌って楽器を鳴らして、楽しく続けて下さい。

### スタッフ・DVD制作

監修・坂田英明

目白大学保健医療学部 教授  
埼玉県立小児医療センター・耳鼻咽喉科 科長

- ・安達のどか  
埼玉県立小児医療センター・耳鼻咽喉科
- ・赤星建彦  
財東京ミュージック・ボランティア協会 会長

出演・井上聡子

埼玉県立小児医療センター療育音楽・音楽療法  
セッション担当

財東京ミュージック・ボランティア協会  
全米・日本音楽療法学会認定音楽療法士  
フロリダ州立大学／タラオハシー総合病院NICU  
研究室 日本アメリカ部署責任者

伴奏・村上千乃

埼玉県立小児医療センター療育音楽・音楽療法  
セッション担当

財東京ミュージック・ボランティア協会

手話・宮下あけみ（手話通訳士）

制作・赤星多賀子

制作協力・(株)シルバーチャンネル

制作・著作・財東京ミュージック・ボランティア協会

# 埼玉県立小児医療センター・難聴ベビー外来での音楽療法

村上か乃<sup>1)</sup>、赤星建彦<sup>1)</sup>、赤星多賀子<sup>1)</sup>、坂田英明<sup>2)</sup>、安達のどか<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 財東京ミュージック・ボランティア協会 <sup>2)</sup> 埼玉県立小児医療センター・耳鼻咽喉科

(KEY WORDS: 自動ABR・早期療育・音への気づき・母子のコミュニケーション)

JR宇都宮線 蓮田駅から1時間に1本のバスに揺られて10分弱のところに埼玉県立小児医療センターがあります。

その耳鼻咽喉科長・坂田医師が、小平市にある赤星会長を初めて訪れたのが2000年。今から8年前のことです。坂田医師の難聴ベビーに対する熱い想いに、赤星会長が共感し、それに應えるかたちで2000年6月より埼玉県立小児医療センター 耳鼻咽喉科・難聴ベビー外来にて「療育音楽」が始まりました。

昨年からはフロリダ大学で博士号取得のために留学している井上聡子さんと共に、私も開始当初よりお手伝いをさせていただいております。現在は、協会の音楽療法士奥住昌子さん、内田かおりさんと共にセッションを提供しています。

難聴ベビー外来がある、毎月第2火曜日は、まず8時20分から始まる朝のミーティングからスタートします。耳鼻科医の坂田医師・安達のどか医師、小児科医の安達医師、言語聴覚士4～5名、看護師、そして私も参加します。

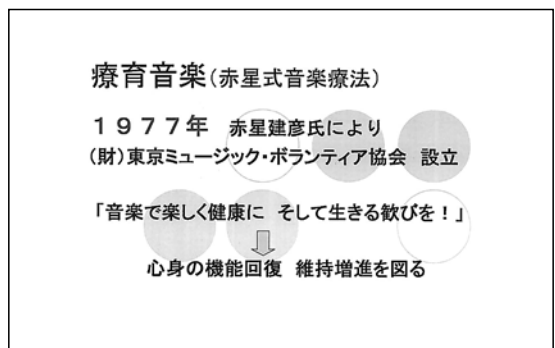
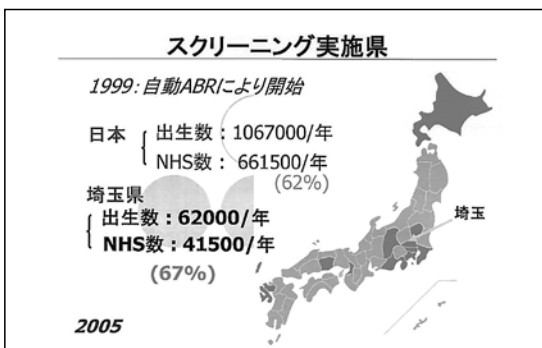
ミーティングでは、おもに新患の情報をチーム全員で周知し確認しあいます。ミーティングが終わる頃、診察室前では、すでに診察を待つ患者さんで溢れ返っています。

難聴ベビー外来に参加をしている保護者は、ほとんどが毎月ご夫婦そろってみえることが多く、不安がいっぱいの赤ちゃんのお母さんを優しくサポートするお父さんの姿がとても頼もしく感じます。鹿児島から毎月通っている方もいらっしゃいます。

今後もチームの一員として「目の前の、この赤ちゃんにとってなにが一番大切で必要であるか？」を常に念頭において、「療育音楽」を提供していきたいと考えております。

## はじめに

小児難聴の歴史は18世紀ごろの手話法と、その後の口話法の登場、補聴器の開発、そして難聴の早期発見が大きなテーマであった。1970年自動ABRが発明されたが時間がかかり操作も複雑



でスクリーニングには不向きだった。過去に於いては高度難聴の発見は平均2歳頃で、その後気導補聴器を装用した療育と母親への教育が主体であった。1997年に自動ABRが日本に導入されたことで全新生児を対象とした難聴の超早期発見が可能となった。H17現在、日本で約62%のスクリーニングが普及している。しかし問題は難聴が発見された後の療育である。埼玉県立小児医療センターでは2000年6月より療育音楽を取り入れている。

## 対象者および目的

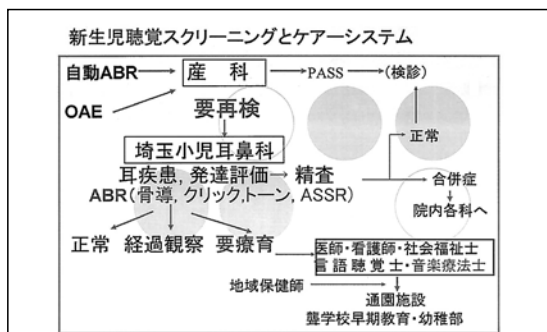
産科の新生児聴覚スクリーニング検査で「要再検」となった乳児が、埼玉県立小児医療センター耳鼻咽喉科の精密検査を受け、要療育と診断された中から現在音楽療法を受けている乳児15名とその家族。音楽療法では、音の振動や、母親との手遊び、楽器を使ってのやりとり遊びなどから、聴覚だけでなく視覚や触覚などの五感を通して脳を刺激し、脳の活性化を促していくことまた不安な思いで参加をしている母親の気持ちに寄り添い、情緒の安定を図るとともに、母子のコミュニケーションを促進させることも目的としました。

## 方 法

**実施回数：**「難聴ベビー外来」早期療育プログラムは12回をワンクールとし、月に1度、朝から診察・両親へのホームトレーニングの指導・補聴器フィッティング・音楽療法をおこなっている。音楽療法は月齢別に2つのグループに分けそれぞれ15分と30分のセッションを行う。

**実施場所：**院内の発達訓練室。110㎡

**形 態：**ひとグループ約6～7名とその家族で、セッションリーダー1名（以下R）、アシスタント2名、聾学校教師、保育士、言語聴覚士、難聴児を育てた経験をもつ母親数名。



### 音楽療法対象者 および 目的

**対象者**

Iグループ  
15分 月齢の小さな乳児 6人とその家族

IIグループ  
30分 Iグループ以外の乳児 9人とその家族

**目的**

1. 音の認知など、聴覚のリハビリテーション
2. 母子のコミュニケーション
3. 母親の情緒の安定

### 難聴ベビー外来(月1回, 全12回)

- 耳鼻科医 : 難聴の理解, 検査, 診断, 治療
- 小児科医 : 発達評価
- 言語聴覚士 : 聴覚学習, 補聴器管理
- 音楽療法士 : 音楽療法実施
- 社会福祉士 : 医療費, 社会補償の説明
- 看護師 : 育児相談 (24時間対応)
- 先輩 : 体験談, 集団討論
- 地域保健師 : 同伴訪問, 育児相談

### 音楽療法実施場所 と スタッフ

**実施場所**  
院内 発達診断室 110㎡

**スタッフ**  
言語聴覚士(数名) 聾学校教諭(1名)  
保育士(1名)  
難聴児を育てた経験を持つ先輩(数名)  
手話通訳士(時として)

プログラムは、挨拶、感覚刺激、手遊び、粗大動作などで構成された能動的な音楽療法。

大きなギャザリングドラム（直径1.5m）を使い、音楽に合わせて一定のリズムを保ち、音を振動感覚や皮膚からの触覚などを通して感覚器官に働きかけ、音の存在に気づき、感じさせるように促した。曲の終わりは必ずドラムを止め、乳児に音の有無を明確に体感させ、少しずつ音を意識できるようにはたらきかけた。

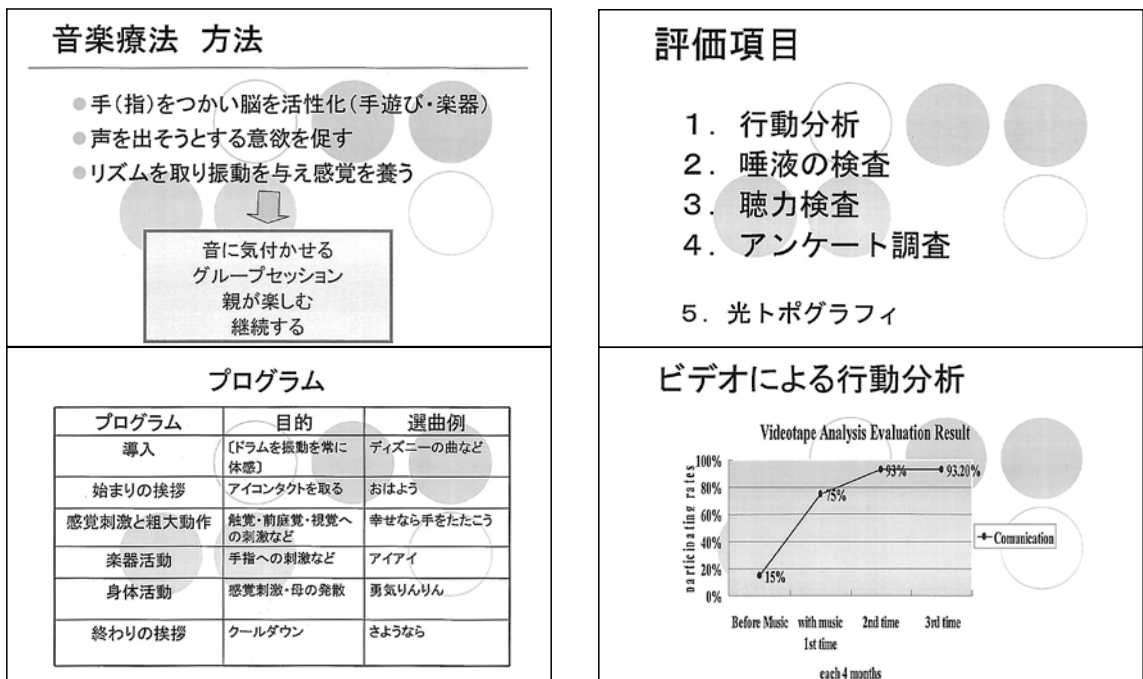
**評価項目：**①ビデオによる行動分析②唾液中のクロモグラニンAによるストレス検査③聴力検査④アンケート検査。アンケートは初回と最終回の音楽療法のあと取った。

## 結 果

- ①行動分析は療法を行う前は多数の乳児が泣くか眠っている状態でわずか15%のコミュニケーションしか確認できなかったが、回数を重ねると共に、率が増加した。この事実から、ドラムの振動と音楽を伴う働きかけが乳児に何らかの影響を与えたと考えられる。
- ②唾液検査の結果、ストレスが軽減した乳児は42%、変化が見られなかった乳児33%を合計すると75%になった。このことから音楽療法は、ストレスを軽減するよい効果があることがわかった。
- ③聴力の改善もみられた。改善の要素は色々あった。
- ④アンケート結果。初めて音楽療法に参加したときの母親の気持ちを尋ねると、不安を感じながらの参加が15名中11名、楽しめた人は4名であった。音楽療法最終回を終えての母親の総合評価は、楽しめたが15名中10名、まあまあ楽しめたが4名、わからないと答えた人は1名だった。

## 考 察

西村ら（2003）は、ランダムに募った成人が40分の音楽聴取後に74%の有意なストレスの低減



があったことを示した。本事例でも75%の有意な結果がみられた。このことから音楽のジャンル・人との関わり・年齢などにかかわらず音楽そのものにストレスを軽減させる効果があったのではと考える。

梅田ら（2006）は疾患を持った0～2才児の乳幼児の個別音楽療法でリクエスト曲を募った。主なものはアイアイ、犬のおまわりさん、糸巻き、おもちゃのチャチャチャ、どんぐりころころ、チューリップなどと述べている。

本事例の音楽療法でも、ほぼ同じような曲が網羅されている。これらの曲は誰でもが口ずさむことができる馴染みのある曲で、母子のコミュニケーションが図りやすいことと共に、擬声語が多く含まれており、児への発声を促しやすくするのではと考える。

## まとめ

難聴ベビー外来という安心した人間関係の中での音楽療法の経験は、多くの母親に自信とゆとりを与え、乳児へ向けた丁寧な働きかけは、母親に対する基本的な信頼感を獲得する足がかりになった。またアンケートでもわかるように、音楽療法は母親にとって希望を持って子どもと向き合う場所となった。まだまだ未知数の難聴児への音楽療法だが、今後のより良い療育のためにも継続して研究することが有効であると考ええる。

### アンケートの結果

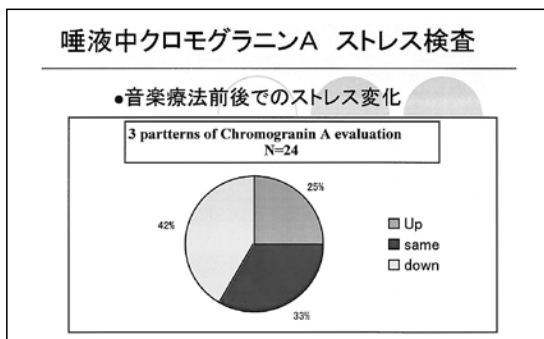
- 初めて参加したお母さんの気持ちは？  
不安 11人 楽しみ 4人
- 12回の音楽療法を受けての評価は？  
よかった 10人 まあまあ 4人 わからない 1人
- 療法を受ける前と受けた後の母親の気持ちの変化？  
子育てに前向きになった  
子どもと積極的にかかわれるようになった  
同じ障害をもつ人たちと触れ合い励みになった

### 今後の課題

- 卒業後の長期的な支援、自宅レッスンの確率
- 障害の多様化・難聴の程度への柔軟な対応
- 個人における脳活動の評価の確率

#### 文 献

- 1) 新生児・幼児・小児の難聴 編集：加我君孝 文光堂
- 2) 聴覚障害児の早期教育 中野善達 福村出版
- 3) 難聴に効くCDブック 坂田英明 小山悟 マキノ出版
- 4) 母子関係の理論Ⅰ愛着行動J・ボウビィ 岩崎学術出版
- 5) ドレミでリハビリ 赤星建彦 東京ぶどう社
- 6) 難聴のお子さんを持つお母さんたちへ —埼玉県立小児医療センター・助東京ミュージック・ボランティヤ協会編



**ABRによる聴力変化**  
—初診時と1年後— N=73

		両側50～100dB未満	両側100dB以上
改善 (27.4%)	20dB	6 (8.2%)	0
	30dB以上	7 (9.6%)	7 (9.6%) <small>(無反応から反応出現)</small>
不変 (65.8%)		19 (26.0%)	29 (39.7%)
悪化 (6.8%)	20dB以上	1 (1.4%)	0
	無反応へ	0	4 (5.5%)



# 「聴覚障害児への療育音楽」～音楽と音振動を楽しく伝える～

(財)東京ミュージック・ボランティア協会 会長 赤星建彦

## 療育音楽とは

療育音楽（赤星式音楽療法）は、心身の健康回復、維持、予防をめざした能動的な音楽療法プログラムである。欧米で発達してきた精神治療を目的としたものとは違い、医師、理学療法士などのアドバイスをを受けてプログラムが確立した。自ら楽しく歌ったり体を動かしたりすることで血流を良くし、脳に直接働きかけるリハビリテーションとして、日本全国の施設、海外でも多く実践を積んでいる。1997年、アメリカ音楽療法協会より当協会及び創始者赤星建彦個人に特別会長賞が授与されている。

## 療育音楽の医学的理念

### (1) 手を有効に使って脳を活性化する

療育音楽では指先を刺激するようにリズムをとる。手を刺激するような楽器の使い方を考慮することで脳の働きを高める。また指、手、腕などの上肢を動かすことで脳の血流量が増える。

### (2) 歌、発声、呼吸法を通じて呼吸器を強化する

人間の脳の重さは体重の2%以下しかないのにもかかわらず、呼吸して体内に取り込まれた20%の酸素を必要とする。脳の活性化のためにも酸素を十分取り入れる必要がある。また加齢と共に落ちる肺活量も、普段の生活では5分の1しか使われていない。

療育音楽では、肺の機能を充分働かせる方法も考慮する。

### (3) 身体にリズム感をつけ、生活リズムの改善につなげる

人体には、規則正しい生活をしていると24時間に同調して働くサーカディアンリズムがある。けれども現代のように社会が激しく移り変わる時代では、体の中のリズムは外的な環境のリズムに合わせてくくなり様々な心身の変調となって現われてくる。夜間徘徊やうつ病なども身体のリズムの乱れによると言われている。療育音楽では、歌いながらリズムをとるリズムトレーニングを通じて身体にリズム感を養い、日常の生活リズムを取り戻し、ストレスの発散を促す。

この他、難聴問題、声域の状態に対する曲のテンポ・キー設定については、調査研究を行ないながら対応している。

今回の新生児難聴児への療育・音楽療法は、これらの調査研究により応用されてきたものである。

## 療育音楽の方法

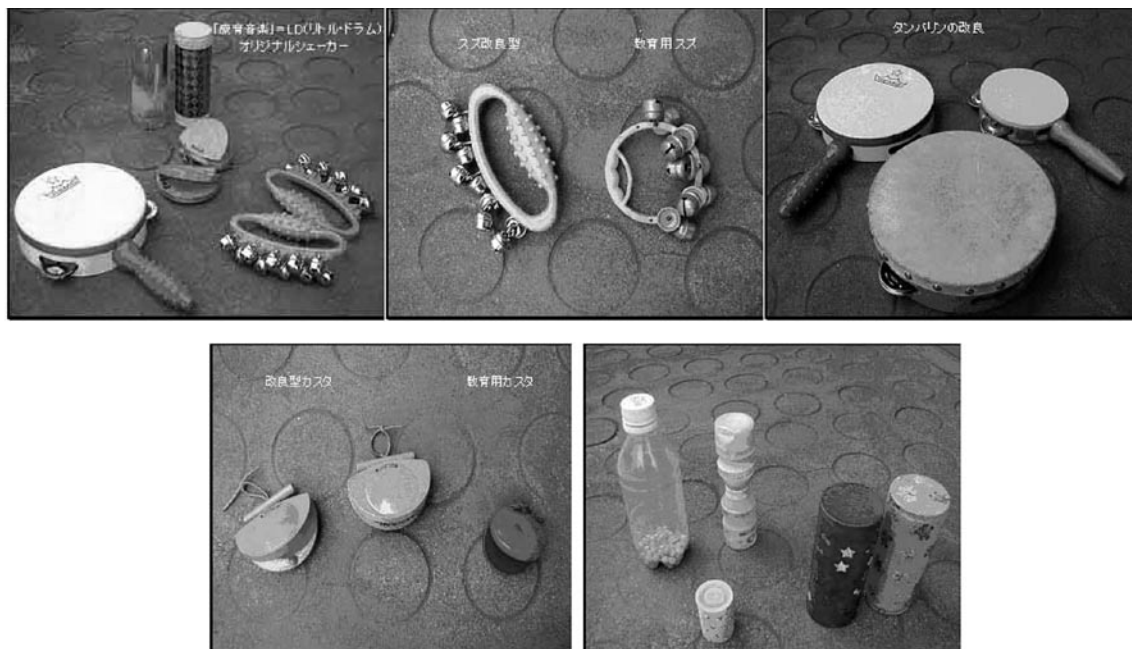
上記の医学的理念をもとにして5つのプログラムに体系化されている。

- Aプログラム（基本プログラム・身体虚弱な高齢者対象）
- Bプログラム（認知症性高齢者対象）
- Cプログラム（知的障害児対象）
- Dプログラム（身体障害者対象）
- Eプログラム（元気な高齢者対象）
- Fプログラム（フリー、ファイナルケア、など）

☆聴覚障害児への音楽療法は、Cプログラムを使っている。

プログラムの実践にあたっては、対象者が楽しめる、馴染みのある曲を選曲する。また小人数でもできるだけグループで行ない（家族や介護者も共に）、楽しさを共有できることが大切だと考えられている。“楽しい”と感じられると、やる気や集中力を生み出すホルモンが分泌され、脳全体を刺激するようになる。

## 療育音楽用のオリジナル楽器



# 聴覚障害児の音楽療法のアプローチについて

## ～聴覚と脳の働きの関係～

人間が新しいことを学習するにあたり「脳」を活発に刺激することが大切です。

脳を刺激するために私達は五感（味覚、視覚、触覚、聴覚、臭覚）を使い、日々の生活の中から多くのことを学んでいます。最近では、胎児や新生児に関しての研究も飛躍的に行われるようになり医学的に色々なことが分かってきました。音楽が胎児や新生児に対しての効用も少しずつ解明されてきつつあります。

聴覚と脳の関係は、音をどのようにして認識しているかということを理解することが大切ですが、基本的には、耳がいくら音をとらえてもその情報が脳皮質の中にある聴覚野という場所で認識されない限り有効にその音を情報として処理できないということが分かっています。言葉に関しても音として脳に入ってくるが聴覚野を経て言語野に情報がうまく伝達されないと言葉として認識されないのです。

このように脳の働きが、さまざまな情報を認識することに大きな役割を果たしています。

新生児は五感の中で触覚が一番早く発達してくるといわれ、生後1～2ヶ月ではほぼ完成するといわれています。その他に視覚は、生後3ヶ月、又臭覚も早く赤ちゃんは、母親と他の人を匂いで嗅ぎ分けるともいわれています。それに比べて聴覚の発達は遅く、2歳ぐらいいまにかかるといわれています。ですから、難聴だからといって耳からの情報が不十分であっても他の感覚を有効に使い早いうちに脳を刺激し活性化してあげることが大切なのです。

## ～音楽と脳の関係～

脳は、右脳と左脳に分かれているのですが、両方を上手に刺激してあげることで豊かな人間形成が生まれるといわれています。

左脳は、「話す、書く、論理的思考、計算」、右脳は、「視覚情報の全体的な把握、空間内の操作機能」の働きを担います。音楽は一般的に、右脳の分野が優位で、私達に情緒、感情を読み取る能力を発達させるのに役立つといわれています。言語表現は、左脳分野で処理をされたとしても右脳部分でイントネーションの変化をつけることを学ばなければ感情のない機械のような表現になってしまうのです。

## ～脳を刺激する1つの方法としての音楽～

さて、ただ脳を刺激するといってもどうしたらよいのでしょうか。

わたしたちの能動的な音楽療法では、音楽を使って楽しく脳の刺激を促していくことを目的としています。音楽療法の手法の1つ療育音楽では、指先を使って脳を活性化する方法をとっています。指先には第二の脳、又は、外に出ている脳と言われ、140億～150億といわれる脳の神経細胞が集まっており、音楽に合わせて手を合わせたり、楽器を演奏することで脳を活発に刺激

させていきます。

### ～療育音楽療の利点～

その他に、音楽に合わせてリズムをとることで体のリズム感を整えていきます。新生児や乳児の場合まだまだ体のリズムを調節していくことは難しいですが、音楽から新しいリズムを学ぶことで、少しずつ新しい感覚を養っていきます。また、音楽に合わせて大きな声を出して歌ったり、声をだそうとする意欲を促すことにより呼吸機能の強化にもつながります。

### ～特に聴覚障害児に対しての音楽療法で力をいれることは…～

音楽（音）は耳から聞くだけでなく、振動で体に響き感じます。振動を通じて、実際には聞こえなくても、脳に刺激を与えてあげることで、脳の中の聴覚脳というところを刺激します。振動を感じることで、そのうちに、少しずつでも音楽（音）を感じてもらえるようになってもらうのが大きな目的です。

- ◎ 歌いながら、他人の口の動きを見て言葉を学んでいきます。
- ◎ グループである音楽療法なので、母（家族）子、共に楽しみながら参加できます。  
他に参加する家族と交流しながら楽しんでもらえる場所です。
- ◎ 0歳児からいろいろな刺激を受けられる場所として音楽療法を活用していただけることを望んでいます。

### ～聴覚障害児と音楽～

体で音を感じ取りながら楽しく音に触れ合うことから始めていきましょう。

以上のように、脳を刺激し、たくさんの神経回路を増やしてあげることが大切なのですが、音楽を使うことにより家族みんなで楽しく参加していただきけます。赤ちゃんはその様子を目で見えて安心し、少しずつ音に対してのサインを学んでいきます。

### ～音楽療法とグループで行う利点～

療育・音楽療法では、家族では親兄弟などと一緒に行いますが、グループでセッションを行うことをすすめます。グループになると色々な症状の利用者がいらっしゃいます。しかし、グループだからこそ利用する方々の横のつながりが期待されます。人間同士の付き合いだからこそ、どのような症状であってもお互いに学び助け合うことができるからです。セッションの中では、よくできることだけを比較してしまいがちの世の中から、他の人のいいところを発見し合いながら、笑顔で楽しく過ごせるよう療法士も心がけています。療法士は音楽を利用者に、上手になるために指導するのではなく音楽を道具として利用者のニーズに合わせて使っています。お医者さんが、患者さんのニーズに合わせてお薬を調合するようなものです。このグループセッションでは、1対1のつながりもありながら横のつながりを大切にできるように考えてあります。

## ～続けることの利点～

脳は、同じ事を繰り返して行うことにより、回路をたくし記憶していくとされています。ですから、何度も同じことを繰り返すことによって学習し記憶していきます。音楽療法も、毎週1回ずつでも続けていくことが望ましいですが現状はなかなか難しいものです。音楽を使いながら御家庭でも、お子さんとの交流を兼ねて、1日15～30分でもセッションと同じようなりハビリを続けていただくことを促しています。どのようにしてよいか分からない場合もあるので、ガイダンスとなるビデオを作成いたしました。ビデオを見ながらご家庭で交流を深めていただいています。いつも聞いている音楽をかけて母親や父親、兄弟が踊ったり、歌ったりしていることを見て、赤ちゃん自身も自分から笑ったり、体を動かしたり、声を出したりするようになります。

### ☆☆ 基本的な進行と目的 ☆☆

所要時間： 60分

進 行	目 的
①導入 10分 (15分)	ムード作り。自然に話をしながらアイコンタクトをとり、歌に合わせて手先でリズムをとる。
②始まりの挨拶 5分	一人ひとり呼びかけ、始まりの認識を促す。声をだせない人も何かしらの動作で意思表示できるよう反応をひきだす。(スズ等を使ってもよい)
③発声 10分 (15分)	かけ声、応答形式の曲、発声用の曲を利用して、障害に応じて対応する。
④基本動作 5分 (10分)	はう (例：兎と亀)、転がる (例：どんぐりころころ)、歩く (例：線路は続くよどこまでも)、曲の静止と同時に止まる、座る... など簡単な動きでリズム感を養成し、身体機能を活性化する。
⑤楽器の選択 5分 (10分)	自分の好きな楽器を選ぶ、また取りに行くなどから、自己主張を促し、合奏への興味を引き出す。
⑥合奏 15分 (25分)	障害に応じて楽器の使い方を考慮しながら、リハビリテーションにつなげる。
⑦自由な動き (10分)	心身がほぐれてきているので、自分自身の持っている動きや、リズム感を引き出す (スタッフ側の思いもよらなかった動きを見せることがままある。) グループメンバーどうして楽しめる全身の動きができるように促す。
⑧終りの挨拶 5分	安らいだ状態、終りの認識を促す。

赤ちゃん達の「あっ！」と驚く行動が見られることを楽しみにしています。

## セッション案とアンケート

0歳児における難聴児の療育・音楽療法は、前に表にしたプログラム（乳幼児／児童対象）の流れを基本に進めていきます。セッションの所要時間は、乳児のため赤ちゃんの様子を見ながら、40～45分で進めていきます。

☆ 音楽療法ではご家族にアンケートをとります。

- ① 音楽療法に対するアンケート
- ② 赤ちゃんの家族の音楽的背景チェックリスト
- ③ 日常の様子アンケート
- ④ 音楽療法中のアンケート

☆ 初回セッションでは、音楽療法の目的や、利点など、家族の方が疑問に思っているであろうことを説明しながらセッションを進めていきます。お話に集中するのではなく音楽の流れている楽しい雰囲気の中から、音にふれ合いながら、お子さんとのコミュニケーションをはかります。

☆ 同じ行動パターンを学習するにしても、選曲を変えていく事によりお子さんの興味を高めていきます。

### セッション例

進 行	曲 目	目 的
1. 導入 音を楽しむ 楽しそうな雰囲気 作り	* 子供の好きな曲～童謡～ リクエスト曲 ドレミの歌 とんぼのめがね めだかの学校 森のくまさん となりのトトロ さんぽ など。	* 振動を感じてもらう * お子さんの身体に触れながら リズムをとってあげる * 話しかけをするように笑顔で お子さんに接する * 口を大きく開けながら歌を歌 うように心掛ける
2. はじまりの認識	①おはよう	* 発声、口を動かす-開ける
3. 基本動作	②おはなしゆびさん ③幸せなら手をたたこう ④とけいのうた ⑤どんぐりころころ	* 指先の認識／指先の運動 * 腕の運動 * 全身のストレッチ * 全身運動

4. 楽器	⑦犬のお巡りさん ⑧山の音楽家 ⑨ぞうさん	*早い／遅いの認識（スピード） *リズムの真似／好きな動作 *好きな楽器を選択 *順番に演奏する *身体を揺らす
5. コミュニケーション	⑨さんぽ ⑩おかあさん	*親に抱かれて横揺れと縦ゆれを体験する。親は、子供の顔を見ながら歌う。発散
6. おわりの認識	⑩さよなら	*歌う、終りの認識

### ～今後について～

各々の地域で同じようなプログラムが開催され、継続してセッションを受けられることが理想ですが難しいのが現状です。音楽療法士としては、早期発見された赤ちゃんとその家族が少しでも音楽を楽しめるものだと感じてもらえることが重要であります。しかし、現在の音楽療法の現状は継続していくことが極めて困難であり、今後、もっと多くの専門家へ音楽療法の効果を理解していただけるよう調査研究の必要性を感じています。又、そのためには、他の専門家の理解、専門的知識をもった音楽療法士の育成、地域での音楽療法を行える場所の確保や、また、ご家族の方への負担を少しでも軽減出来るよう行政の補助も不可欠といえます。

### ～療育・音楽療法用ソフトの紹介～

療育・音楽療法では、音の高さ（key）や音の速さ（tempo）を利用者のニーズによって変えられる伴奏君とフロッピーディスクがあります。これを使うことにより、オリジナルの高さや速さについていけなくても、必要に応じて（聞きやすい音、歌いたい速さ）変化させられ使いやすくなっています。（興味のある方は、ご相談下さい。）

（財）東京ミュージック・ボランティア協会に御連絡ください。



## 家庭用・音楽療法DVDを楽しくつかうために

### 音楽療法DVDの目的

このDVDはご家庭で、赤ちゃんが、お母さんやおうちの方と毎日おこなうために制作されました。

【DiscA】は、生後1ヶ月～6ヶ月までの赤ちゃんを対象に、【DiscB】は、生後6ヶ月～1才半くらいまでの赤ちゃんを対象にして作られています。DVDに記されている赤ちゃんの月齢は、あくまで目安ですので、ご自分の赤ちゃんの成長に合わせて利用してください。

脳の神経細胞は、刺激が与えられるたびに成熟を進めていき、神経細胞内の連絡の路もできてきます。そのためには、発達の初期から何度もパターン化した刺激を受ける必要があります。刺激は、遊びの中でおこなうからこそ楽しい刺激になるわけです。

また赤ちゃんは、ことばの正確な意味を理解していなくても、お母（父）さんの語りかけの中から、両親の温かな感情を感じ取っています。この感情のコミュニケーションも赤ちゃんにとっては大切です。

さあ、きょうから、家庭でも毎日、楽しくリハビリにつなげていきましょう。





## Disc A 「赤ちゃんとお母さんとの音楽！」 対象：生後1ヶ月～6ヶ月

まず、赤ちゃんをお母（父）さんの膝の上で向かい合わせて、しっかり抱きかかえて下さい。（まだ首がすわらない赤ちゃんは、気をつけて抱っこしましょう）

抱きかかえた赤ちゃんの体を、“トントン”と、歌に合わせてリズムを取りながら軽くたたきます。音（振動）は体を通して赤ちゃんに伝わっていきます。

歌いかける時に大切なことは、お母（父）さんは、はっきり大きな口を開け、口の動きを強調して、赤ちゃんに見せてあげてください。赤ちゃんの目を見つめながら、声を少し大きめに出して歌ってあげると、効果的です。

進行	目的	曲目	備考
歌（1）	・ 始まりの認識を促す ・ コミュニケーションを促す	おはよう	・ 赤ちゃんを膝に乗せ、向きあいましょう
歌（2）	・ 感覚刺激を促す ・ 母親の顔を見る	だるまさん	・ 赤ちゃんを膝に乗せ、向き合いながらユラユラと軽く揺れながら歌いかけましょう
歌（3）	・ 感覚刺激を促す ・ 体の部位への意識を促す	さわってコチョコチヨ	・ 赤ちゃんが喜びそうなところを色々くすぐってみましょう。
歌（4）	・ おもに上肢を動かす	とけいのうた	・ 床に寝かせておこないましょう
歌（5）	・ 低い音と高い音の認識を促す ・ 大⇄小の認識を促す	大きなたいこ	・ 家庭にある身近なものを利用して楽しいですね
歌（6）	・ クールダウン	きらきら星	・ 赤ちゃんのからだをリズムに合わせてゆったりトントンしてみましよう ・ おかあさんは立って抱っこしてもいいですよ
歌（7）	・ 終わりの認識・明日の約束	さよなら	きょうの音楽療法はこれでおしまいです。また明日あいましょう。

### (1) 「おはよう」の歌 作詞／作曲 赤星 建彦

おはよう〇〇ちゃん おはよう〇〇ちゃん  
おはよう〇〇ちゃん おはよう〇〇ちゃん  
きょうも楽しく うたいましょう

まず初めに、あいさつの歌から始めます。「♪おはよう 〇〇ちゃん」と、「おはよう」の後は、赤ちゃんの名前を歌ってあげてください。

### (2) だるまん

だ～るまん だ～るまん にらめっこしましょ  
笑うと負けよ あっぷっぷ～

昔から歌い継がれているわらべうたです。2回くり返します。

最後の ♪あっぷっぷ～ で、お母（父）さんは、表情豊かに面白い顔をしながら、赤ちゃんをあやして笑わせてください。

### (3) さわってコチョコチョコ オリジナル曲

あたま撫でて ホッペさわって  
おなかさすって からだ揺らして  
(少し間をとってから) コ～チョコチョコチョコ。

赤ちゃんは外からの刺激がとても大切です。赤ちゃんが刺激に慣れるように、この歌をうたいます。オリジナル曲ですが、短いので すぐ覚えられます。

赤ちゃんは段々この歌を覚えてくると、くすぐられる行為を、期待しながら待つようになります。『少しの間』を取ることで、赤ちゃんの期待度はアップすることでしょう。



(4) とけいの歌 作詞／筒井 敬介 作曲／村上 太郎

コチコチカッチン お時計さん  
コチコチカッチン 動いてる  
子どもの針と おとなの針が  
こんにちは さようなら コチコチカッチンさようなら

この歌で、赤ちゃんの体をやさしく動かしてあげましょう。

仰向けに床にねかせた赤ちゃんの両手に、おかあさんの親指をそっと握らせ、赤ちゃんの腕を、時計の針に見立て、ゆっくり3時にしたり9時にしたり動かします。

曲は2回くり返し、最後はしっかりバンザイさせてあげましょう。

また、バリエーションとして、仰向けにねかせた赤ちゃんの両足を、横から軽くつかみ、片足ずつリズムに合わせてゆっくり屈伸運動をするなども試してみましょう。

いずれの場合にも赤ちゃんがイヤがったら、無理に続けず、腕や膝から下をマッサージするとよいでしょう。

(5) おおきなたいこ 作詞／小林 純一 作曲／中田 喜直

大きなたいこ ドーンドン  
小さなたいこ トントントン  
大きなたいこ 小さなたいこ  
ドーンドン トントントン

歌詞の♪大きなたいこのところは、大きな動作で、♪小さなたいこのところは、小さな動作でおこないましょう。2番は、高い音のでるものを叩いてみましょう。



(6) キラキラ星 フランス曲(作詞はオリジナル)

キラキラ光る 大きな星よ  
小さな星も みんなを見てる  
キラキラ光る 大きな星よ

2回くりかえします。2回目は、歌詞は出ませんが、♪ラララ～などで、お母（父）さんが、赤ちゃんをねかしつけるように、優しく赤ちゃんに歌いかけてあげてください。クールダウンの目的もあります。

(7) さようなら 作詞／作曲 赤星 建彦

さよなら さよなら  
また会う その日まで

終わりのあいさつです。赤ちゃんと楽しんでいただけましたでしょうか？  
また明日お会いしましょう。のことばで終わります。



## Disc B 「赤ちゃんと音楽とリズムを楽しむ」 対象：6ヶ月～1才半

Disc Bでは、赤ちゃんに向かいあって座ります。お座りが、まだ完全でない赤ちゃんは後ろに倒れないようにじゅうぶん配慮してください。赤ちゃんの体を、“トントン”と、歌に合わせてリズムを取りながら軽くたたいたり、赤ちゃんと両手をつなぎ軽く上下に動かしてリズムを取るなどしてください。

音（振動）は体を通して赤ちゃんに伝わっていきます。

歌いかける時に大切なことは、お母（父）さんは、はっきり大きな口を開け、口の動きを強調して、赤ちゃんに見せてあげてください。赤ちゃんの目を見つめながら、声を少し大きめに出して歌ってあげると、効果的です。

進行	目的	曲目	備考
歌（1）	あいさつ	こんにちは	慣れてきたら手話をつかって歌ってみましょう
歌（2）	手指をつかって脳を刺激する	小さなクモ 日本語と英語	色々な手の動きを試して見ましょう
歌（3）	・おもに上肢を動かす ・速い⇔遅い ・大きい⇔小さい	大きな栗の木の下で	大きく伸びると気持ちいいですね
歌（4）	・全身を動かす ・発声を促す	アイアイ	・おうちの方もお子さんと一緒に全身を動かしてダンスしましょう
歌（5）	全身を使って	どんぐりころころ	・ゆっくり転がりましょう
歌（6）	・低い音と高い音の認識を促す ・大⇔小の認識を促す	大きなたいこ	・家庭にある身近なものを利用して楽しいですね
歌（7）	・クールダウン	きらきら星	・お子さんのからだをリズムに合わせてゆったりトントンしてみましょう ・おかあさんは立って抱っこしてもいいですよ・お子さんと手をつないでもいいですね
歌（8）	・終わりの認識・明日の約束	さよなら	きょうの音楽療法はこれでおしまいです。また明日あいましょう。

## (1) こんにちは 作詞／作曲 赤星 建彦

こんにちは (こんにちは) みなさん (みなさん)  
ごきげんは (ごきげんは) いかがです (いかがです)  
夢のある (夢のある) ひとときを (ひとときを)  
ともに楽しく 過ごしましょう  
こんにちは (こんにちは) みなさん (みなさん)  
歌ったり (歌ったり) 話したり (はなしたり)  
喜びを (喜びを) 分けあって (分けあって)  
笑顔いっぱい 咲かせましょう

初めにあいさつの歌をうたいますが、画面では、まず♪こんに～ちは と歌いかけています。お母(父)さんは、そのあと間をあげずに、すぐ♪こんに～ちは と追いかけるように真似をして歌ってみてください。

慣れてきたら、手話をつけて歌ってみてください。

## (2) クモ(蜘蛛)の歌 Eensy Weensy Spider アメリカの歌

小さなクモがのぼっていくよ  
雨が降って 流れたよ  
お日さま出てきて 乾いたら  
小さなクモがのぼっていくよ  
Eensy weensy spider went up the water spout  
Down came the rain and washed the spider out  
Out came the sun and dried up all the rain  
And the eensy weensy spider went up the spout again

次はアメリカでよくうたわれている歌を紹介します。小さなクモが上にのぼっていく歌です。子どもが少しずつ成長していくと、自分で動作をやってみたいと思ってきます。

初めは、手をグーにして、右こぶしの上に、左こぶしを重ね…それを交互にしてみたり、またお母(父)さんが手をグーにした上に、子どものグーにした手を重ねるなど、色々ためしてみましよう。2番は英語で歌っています。



### (3) 大きな栗の木の下で 作詞／作曲 不詳

大きなくりの木の下で  
あなたとわたし なかよく遊びましょ  
大きなくりの木の下で

歌いながら、からだ全体をつかって動作をします。

画面と向き合うのではなく、赤ちゃんと同じ向き合っておこないましょう。2番はテンポが少し速くなっています。♪大きなくりではなく、小さなくりの…と動作を小さくしても楽しいですね。

### (4) アイアイ 作詞／相田裕美 作曲／宇野 誠一郎

アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おサルさんだよ  
アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) 南の島の  
アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) しっぽの長い  
アイアイ (アイアイ) アイアイ (アイアイ) おサルさんだよ

赤ちゃんとお母(父)さんと楽しく体を動かしましょう。赤ちゃんをよく見て、お母(父)さんが促した動作で笑顔がみえたら、繰り返しましょう。

### (5) どんぐりころころ 作詞／青木 存義 作詞／梁田 貞

どんぐりころころ どんぶりこ  
お池に はまって さあ 大変  
どじょうが出てきて こんにちは  
坊ちゃん いっしょに 遊びましょ

どんぐりがコロコロ転がるように、ゆっくり床をころがってみましょう。

間奏なしで2回繰り返します。



(6) おおきなたいこ 作詞／小林 純一 作曲／中田 喜直

大きなたいこ ドーンドン  
小さなたいこ トントントン  
大きなたいこ 小さなたいこ  
ドーンドン トントントン

音には、高い音、低い音、もっと低い音など、色々な高さの音があることに注目しましょう。  
家庭にたいこがなくても、身近にあるものをたいこに見立てて、たたいてみましょう。

(7) キラキラ星 フランス曲(作詞はオリジナル)

キラキラ光る 大きな星よ  
小さな星も みんなを見てる  
キラキラ光る 大きな星よ

2回くりかえします。2回目は、歌詞は出ませんが、♪ラララ～などで、お母（父）さんが、  
子どもをねかしつけるように、優しく子どもに歌いかけてあげてください。クールダウンの目的  
もあります。

(8) さようなら 作詞／作曲 赤星 建彦

さよなら さよなら  
また会う その日まで

楽しく赤ちゃんと遊べましたでしょうか？明日もいっしょに遊ぼうね！と約束をして終わります。





## 埼玉県立小児医療センター難聴児ベビー外来における療育音楽

### ✿「元気いっぱいKちゃんとの2年7ヶ月を振り返って」 村上山乃

Kちゃんは女児で現在3才9ヶ月。お兄ちゃんが3人いる末っ子です。1才2ヶ月で難聴ベビー外来を卒業しました。

難聴ベビー外来を卒業した子どもたちは、それぞれ近隣の療育機関へ通園しますが、軌道に乗るまでの数ヶ月ないし1年程度の間、月に一度、埼玉県立小児医療センター内の発達訓練室にて、難聴ベビー外来を卒業した子どもたちを対象にした、「フォローアップ音楽療法」を行っています。

Kちゃんは、難聴ベビー外来を卒業以来2年7ヶ月の間、何度かお休みもしましたが、ずっと変わらずに通ってきてくれました。

昨日は、Kちゃんにとって小児医療センターで受ける最後の「音楽療法」の時間でした。

実は、昨日のKちゃんはあまり体調がすぐれず、途中で水分補給をしたり、時々大きな太鼓にペタンとうつ伏せになり、小休止しながらの参加でした。それでも通いなれた部屋で、馴染みのメンバーとの音楽療法のせいでしょうか？少し笑顔がみえました。

Kちゃんの、「フォローアップ音楽療法」に参加を始めてからの様子を少し振り返ってみたいとおもいます。

Kちゃんは、難聴児（裸耳では両耳ともノーレスポンス）であると同時に、ダウン症の障害を持っています。心臓に合併症が出たり、2才になったばかりの時には、血液検査でバセドー氏病と診断されました。もともと筋力が弱く、楽器も太鼓のマレットもすぐ放り投げていましたが、診断された後は、代謝が活発なせいか多動気味で、目に付いたものに突進することばかりで、お母さんは息つく暇もなく対応に追われていました。

耳への違和感からか、補聴器をすぐ外してしまうKちゃんでしたが、ようやく補聴器を外す回数が減ってきて、2才5ヶ月のセッションでは、補聴器を一度も外すことなく周りを驚かせました。しかし、その1ヶ月後には、滲出性中耳炎を繰り返したために、補聴器を着けたり外したりの生活に戻ってしまいました。その後もハウリングがあり、補聴器を付ける時間が短くなりがちだったり、また入院をしたりと、予想のつかないことが次々に起こりお母さんはいつも、とてもとても忙しそうでした。

2才10ヶ月のセッションでは、以前なら音楽が止まっても無視してたいこを叩き続けていたKちゃんですが、この日はリーダーの合図を見逃さず、目が合うと、振り上げたマレットを下ろさずに空中で止まっていることをしたのです。ここで音を出してはいけないと、本人なりに理解したのでしょうか。私の目をキッと見据えてのできごとでした。また、曲の終止間際の大きな動作や、

終止後の音のない状態の時に、唇に人差し指を立てる仕種は、見事にタイミングが合っていました。その他、気に入ったプログラムでは、リーダーが「もう1回？」と聞くと、「もう1回やる」とサインを出し、リーダーとのやりとりが楽しそうでした。

3才3ヶ月 始めの挨拶で、歌にのせてKちゃんの名前を呼ぶと、右手を高く上げて「ハ～イ」と返事をしました。ここまでの完璧な返事の仕方は初めて見るものでした。お母さんは、Kちゃんの頭をクシャクシャと撫で、ホントに嬉しそうでしたし、周りの人からは口々に「Kちゃんすごい！」と、賞賛と拍手をもらい、Kちゃんもにっこりでした。

その後、療育機関でも名前を呼ばれると、確実に「ハ～イ」と腕をあげての返事が習慣づいたそうです。セッションを提供するものにとって、この『日常生活での般化』は、何より嬉しい出来事です。

子どもの成長は、大人が目を見はる素晴らしいものがありますが、お母さんのKちゃんに対する接し方は、いつも絶品でした。どのような時でも、いつも正面から温かく、毅然とした態度で子どもと向き合い、全身をつかってアプローチします。Kちゃんはまだ小さいし集中時間も短いのですが、いつの間にかお母さんのペースに乗せられ、遊びながら、その場にあった行動に軌道修正させられているのです。

また、周囲のお母さんや子どもへの働きかけもとても上手で、若いお母さんたちのリーダー的存在になっているように思いました。

親も子どもも、難聴ベビー外来では、多くのものを学び、育んでいきます。

親子の絆であったり、他者への思いやりであったり、また、人と人とのつながりであったりです。ややもすると、希薄になりがちな現代の人間関係ですが、そのような関係はこの場所では杞憂にすぎません。今後も、音楽を通して培（つちか）ったつながりを大切にして、毎日を過ごしていただきたいとおもいます。



## ✳️難聴児ベビー外来における療育音楽 奥住昌子

聴覚の髓鞘化の完成が約1歳半とのこと。超早期に発見された難聴ベビーにとっての超早期療育は、脳の可塑性を引き出す。とされ、難聴児ベビー外来は、療育の基本である健全な母子関係の構築のためにプログラムされたチーム医療です。そのプログラムの一つである療育音楽では、療育音楽を体験する中で、チーム医療を繋ぎ合わせて実を結んでいく様子が見られ、笑顔が広がっていく様子を見る事が出来ます。

Aちゃんは現在8カ月の男児です。初参加時は、生後4ヶ月でした。聴力は、左右ともNR（反応なし）でした。Aちゃんには兄姉がいるそうで、賑やかな事には慣れている様子。初回のアンケートでお母さんは、Aちゃんの様子を、落ち着いて周りを見ていた感じと捉えていました。Aちゃんは、初回、2回目とも、タイコが鳴ると手足がピクリと動いた後、緊張したように動きが止まり、何かを感じ取っているようでした。音が止むと、機嫌よく手足を動かしていました。そして、初参加時の多くの方がそうであるように、母親の方が少し緊張気味で、周りの様子を見ている様でした。Aちゃんを把握してはいるけれど、セッションプログラムのアイコンタクトやAちゃんへの働きかけに関しては、まだ良くなじめないようでした。

年が明けた、Aちゃんにとって3回目のセッションの日。難聴児ベビー外来では、セッションの始まる前に、9時から診察・聴力検査。10時から、早期療育の第1番目のプログラムとして保護者向けの講義（ホームトレーニング）があるのですが、この日は講義ではなく、3つのグループ（グループ構成は、6～7組の親子と言語聴覚士と難聴児を持つ先輩母親）に分かれての懇談会がありました。Aちゃんのお母さんが参加したグループでは、1年間のベビー外来を、もうすぐ終了する方々が、終了後、どこかの難聴関連機関にお世話になるかで、話が盛り上がり、親同士の情報の交換も活発になされていました。

11時過ぎ、セッションが始まると、Aちゃんのお母さんは、緊張が解けたような表情をしてはいたものの、まだ遠慮がちで周囲に気を配り、Aちゃんに働きかける様子はありませんでした。Aちゃんはタイコの上で、嬉しそうな表情で、音楽の鳴る方をさがすように、体をよじって頭と目を動かしていました。音が止むと同時に、動きが止まり「アー」という声を発しました。

アシスタントが、お母さんに、「音が鳴るのが分かるそうですね、声を出して音を要求しているみたいですね。」と声をかけると、お母さんは、我に返ったように、改めてAちゃんの顔をのぞき込みました。すると、一瞬で柔らかな表情になり、Aちゃんに働きかけるようにもなりました。

毎回のアンケートに、「お母さんは楽しめましたか？」という項目があり、それまで「まあまあ」という回答でしたが、この回から「割合楽しめた」という回答を頂きました。音や振動に合わせて体を動かし、嬉しそうな表情を見せるAちゃんの姿は、母親を勇気付け、笑顔をも引き出してくれることがわかります。

Aちゃんは、4回目から補聴器を装用しました。装用時の聴力は80～90dB（デシベル）でした。お母さんにも、気持ちの変化がみられました。集中してリーダーの指示を見ている姿があり、Aちゃんの目を見て、笑顔で積極的に働きかける様子が見られました。アンケートで、「音に対する反応は？」の項に、3回目までは、「手足が動く」でしたが、4回目5回目では、「体全体が動く」と回答されており、補聴器装用による聞こえの違いが反映されていると思われます

5回目のセッション。Aちゃんは8ヶ月になりました。初回時のアンケートで、音楽療法に対するお母さんの気持ちを問う項で、「Aちゃんにとって、これからの成長が楽しみ」と答えていらっしゃいましたが、それには、母親の笑顔と働きかけがとても大切です。

Aちゃんのお母さんは、子育てに慣れていらっしゃるだけに、その働きかけ方は、とても自然体。それでいて、優しさ溢れる豊かな表情でAちゃんの目をじっと見つめながら、手振り身振りを交えながら分かりやすい働きかけをしています。母親の膝の上に抱かれた時のAちゃんは、その働きかけに、じっとお母さんの表情を見つめていました。タイコの上では、嬉しそうに体全体を動かす様に手足をばたつかせ、スズを見せると自分から握り、振っている様子が見られました。

アンケートの「赤ちゃんが笑顔を見せてくれるのはどんな時ですか。」という質問に、4回目以降は、「親が赤ちゃんに働きかけている時」という回答があり、歌や手遊び、楽器遊び、トントンと赤ちゃんにリズムを伝える等のスキンシップを通して、親子のコミュニケーションが取れている様子が伝わってきます。

本当は、5回目のアンケートに、「眠っていたAちゃんを無理に起こして」参加しましたと、小さく書いてありました。そうなのです。主役の赤ちゃんが、一番眠たい時間に、このプログラムがセッティングされている事は、今後の課題でもありますが、お母さんが、この音楽療法の時間を楽しみにしてくださっている事が嬉しいです。後7回のセッションで、Aちゃんはどのように成長していくのでしょうか。

赤ちゃんの一年間の成長振りは、寝返り、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、独り歩きと毎月大きく変化していきますが、その過程で、ここに集う赤ちゃんたちとその家族を支援するために集まったチーム医療者や関係者とともに、その成長を見守っていきけるこの時間と空間は、これからの社会のあり方を方向付ける物であって欲しいと願っております。

## ✳音楽療法に参加したある親子の記録 内田かおり

季節が梅雨へと変わり始めた昨年6月、埼玉県立小児医療センターの音楽療法の場で、母親に抱かれて気持ち良さそうにスヤスヤ眠っている、生後3ヶ月の女兒Bちゃんと、やや緊張した面持ちのお母さんと対面しました。

Bちゃん親子は耳鼻科外来で医師の診察を受けた後、保護者を対象としたホームトレーニングにお母さんのみが参加し、その間Bちゃんは、じゅうたんが敷きつめてある音楽療法をおこなう部屋で、保育士やボランティアの方たちと共に遊びながらお母さんの帰りを待っていました。

約1時間のホームトレーニングが終了し、短い休憩の後、母子参加型の音楽療法セッションが始まります。

部屋の中央やや端寄りには、直径1メートル以上はある大きなギャザリングドラムがふたつ並んでいます。その周りに所狭しと、約10組の親子が集まりセッションが始まりました。Bちゃんは、きょうが初めての参加です。太鼓のリズム打ちが始まると初めて参加する大抵の赤ちゃんは、太鼓の音と、周りにいる大勢の人たちに驚き、泣き出してしまうことが多いのですが、Bちゃんも例外ではなく、びっくりした様子で泣き出してしまいました。

「あいさつの歌」「手をたたきましょう」「おもちゃのチャチャチャ」「アンパンマンマーチ」などの曲に合わせて楽しい雰囲気の中 楽器や歌を通して、五感の刺激、リラックス、親子のスキンシップなどのプログラムでセッションは進められていきました。参加している他の母親や赤ちゃんの笑顔が広がっていくなか、Bちゃんは太鼓から離れ、用意してあるマットの上で熟睡してしまいました。

音楽療法終了後に、記入していただいたアンケートには、「太鼓の振動によく反応し、家では出来ないような事をさせていただける様子なので良かった」「子どもが楽しんで参加できるようになればよいと思います」と、記されてありました。

セッション2回目にあたる7月も、休まずBちゃんとお母さんはセッションに参加されましたが、その日のBちゃんは、セッションの途中で眠くなりぐずり出してしまいました。Bちゃんを抱いたお母さんは立ち上がり、たいこから少し離れた場で、あやしながら音楽療法の様子を見守っていました。

難聴ベビー外来に参加しているお母さんと赤ちゃんは、外来開始時間に合わせて、朝早く家を出て来るため、音楽療法の開始時間あたりになると、眠くなってしまう赤ちゃんもいます。Bちゃんも、さっきまで大きな目を開けて、機嫌よくしていたのに、セッションが始まるまで待ちきれずに寝てしまうということが、数回続いてしまいました。お母さんも、残念そうです。

セッション4回目の9月、Bちゃんも生後6か月に成長しました。子どもの成長には、私たちスタッフも目を見張るものがあり、コロコロと寝返りをうっては、にっこりとし、目を輝かせて好奇心いっぱいの様子です。

音楽療法のセッションでは、アイコンタクトをとることも大切にしています。 挨拶の場面で

は、リーダーの呼びかけにBちゃんは、発声はなかったものの視線をリーダーと合わせ、笑顔で応えていました。

お母さんがBちゃんの体に触れ、マッサージをする場面では、Bちゃんは気持ち良さそうにジッとしていました。お母さんも安らいだ表情でBちゃんに微笑みかけています。

楽器活動では、手渡したスズをBちゃんは握りしめ、口に持っていきました。

セッション5回目の10月、Bちゃんは途中まで眠っていましたが 楽器活動が始まる頃に目が覚め、お母さんの顔をじっと見つめていました。その後、お母さんの働きかけでまたたく間に笑顔になりました。この日は、Bちゃんのお父さんや、お兄ちゃんもセッションに参加をし、家族でかわるがわるBちゃんに関わっていました。

セッション6回目の11月は Bちゃんは最初から最後までずっと寝ていて、お母さんからは「残念でした」の感想をいただきました。アンケートで、セッションに参加した母親の気持ちを尋ねる欄には、「あまり楽しめなかった」にチェックがついていました。

セッション7回目の12月では、「ジングルベル」に合わせて、生後9か月のBちゃんは小さな手にスズを握り、振っていました。

年が明け、Bちゃんの動きも一段と活発になってきたセッション8回目。

この日のBちゃんは、初めてセッションのあいだ中ずっと目覚めており、体全体で音楽に反応して活発に動き 楽器への興味もどんどん増していく様子がみられました。

セッション終了後の、アンケート「お母さん自身は楽しめましたか？」という質問には、はじめて「楽しかった」の欄にチェックが入っており、自由記述欄には、「親子ともども楽しむことができました」と記されていました。

当たり前のことですが、子どもの笑った顔とお母さんの評価は、みごとに正比例していることを改めて感じました。二人ともとても笑顔の多いセッションでした。

セッション10回目を数えた3月 Bちゃんは1歳の誕生日を迎えました。

すっかり他のお母さんたちとも顔なじみになったBちゃんのお母さんは、周りと語らいながらリラックスをして音楽療法に参加をしていました。

Bちゃんは 視線をキョロキョロと動かし、ギャザリングドラムの上や、その周辺を休みなく動き回っていました。 マレットで太鼓を叩いたり、スズを振ったり、絵本に興味いっぱいに見入ったり、ビートの効いた、アップテンポの曲には、からだ全体で揺れながらリズムをとっていました。「Bちゃんが踊っている！」嬉しい瞬間です。

この日の、お母さんの感想には「来月も楽しみです」という言葉が添えられていました。

## ＊「フォローアップ音楽療法」 卒業にあたって 立花裕美

娘は重度の難聴のほかにダウン症児であり心臓疾患を持っています。

音楽療法の初期のころ（難聴ベビー外来での音楽療法時）は、「せっかく来たのに、どうして集中力がないのだろう!?」「反応が悪いのだろう？」と落ち込んでいました。

でも、それは心臓からくる疲れで、娘にとっては音楽療法の場に通うだけで体力を消耗していてそれどころでは、なかったのだなあと思います。

身体がフニャフニャで筋力が弱く、スズや太鼓のマレットを持つことが、娘にとって大変なことだった筈なのに「どうしてやらないの?」「どうして放り投げるの?」とイライラしていました。

声に出して自分の気持ちが、言えない分 行動で示していたのだなあ、いまなら娘の気持ちをわかってあげられるけど、当時は きっと周りと比較してあせっていたのかもしれませんが。私も、当時は無我夢中で、障害に対するすべてが手探りで、娘のペースに気付いてあげる余裕がなかったことを反省しています。

でも、どんな時でも音楽療法の先生、療育に携わるすべてのスタッフの皆さまが、笑顔で包んで接してくださり、気持ちが救われていました。だからきょうまで親子ともども成長させてもらえました。

今は、「太鼓も大好き!」「音楽 大好き!」笑顔で参加し、親子で楽しんでいます。

さまざまな課題は、山のようにあるけれど、わが子のペースで、一つひとつ地道に積み重ねての現在です。

相変わらず、イヤーマールドを外して無くしてしまったり、色々なアクシデントの日々の中で、イライラしたり、壁にもいっぱいぶつかるけど、療育の先生に何でも話して、思いっきり吐きだして、泣いてスッキリして…また明日へと道は続くのだ…という感じです。

思い起こせば、色々なことがありました。これからも もっと大変なことが待ち受けているかもしれませんが、同じ歩む道なら、楽しく、笑顔で、そしていっぱい褒めてあげながら前進していきたいと思っています。

今まで支えてきて下さって感謝しています。

これからも見守っててください。 ありがとう！

## 楽器の紹介と使い方

### どんな楽器を使うの？ 使用楽器と使用法

楽器は大鼓のような叩く打楽器、管楽器など口で吹く吹奏楽器、ピアノ、キーボードのような鍵盤楽器、ギター、バイオリンのような弦楽器、アコーディオン、ハーモニカのようなリード楽器などたくさんの種類があります。

多くは手を使いますがドラムのように両手、両足を使う楽器もあります。

どの楽器も指、手、腕、口、足など体のどこかを使うことで音が出て、音楽になります。

音楽で身体を動かすこと自体が身体機能の向上に役立つと考えて活動してきました。

赤ちゃんは握ったり、振ったり、叩いたりする行動は大好きです。小さな楽器で無理なく握られる、振れる、叩ける、視覚からも楽しい動作が伝わってくる、音はすぐ理解できなくても、続けて入るうちに振動やほかの赤ちゃんの様子が伝わりまねをするようになります。上手、下手はありません。その時感じたままの反応で充分です。

ここに紹介している楽器は埼玉県立小児医療センターでのセッションで使用しているものを中心に選びました。大きなテーブルドラム、大タイコは振動が伝わりますが、家庭では身近にある楽器を応用して使用してください。

ない場合は工夫して、例えばタイコがない場合は木やプラスチック製の洗面器や箱の底を叩く面にして使います。口に入れても安全なもの、触ったり、叩いても怪我をしないよう安全に気をつけて使用して下さい。

何より、形、動作から楽しさが伝わるように工夫をして、お母さん、お父さんはじめ家族みんなと一緒に楽しむことが大切です。



〈リングベル(スズ)〉小さな手で握れる子供用。持って振る。



スズを持って振って音を出す。それぞれの振り方で楽しんで下さい。キーボードは伴奏用。



〈ミニタンバリン〉手で持つ柄が付いていて、使いやすい。



手でタンバリンを叩いて、音と触覚を感じる。



〈ギロー、ウッドブロックギロー〉マレット (バチ) で叩いて、こすって音を出す。



ギロー、棒でこすって音を出す。





〈ミニマラカス〉手で握って振って音を出す。



大きなテーブルドラム。叩いて、座って振動を感じて。



〈ギャザリングドラム〉椅子に座ってもよい。



ギャザリングドラム、手で叩く。マレットで叩いてもよい。



〈テーブルドラム〉手で叩いて振動が手と身体に伝わる。



テーブルドラム、みんなでできるように触覚を楽しみます。



〈ハイカラ〉伴奏用機器。カードにメモリーされている。キー（高さ）もテンポ（速さ）も自由にかえられます。



〈アンプ〉伴奏用に使用する。音源（キーボード、伴奏機、MD、CDなどの音量を増幅）など調整します。〈伴奏くん〉フロッピー使用。キー、テンポが瞬時に変えられます。赤ちゃんのテンポ、お母さん（赤ちゃん）の歌いやすい声の高さに合わせられます。

# 赤ちゃんが楽しめる曲目リスト (参考資料)

アイアイ	かあさんの歌	通りゃんせ
青い目をしたお人形は	案山子	どじょっこふなっこ
赤い靴	かごめ	となりのトトロ
赤とんぼ	かたつむり (かわいい動物メドレー)	友だち賛歌
赤鼻のトナカイ	カッコワフルツ	ドラえもののうた
あの子はたあれ	肩たたき	ドレミの歌
あの町この町 (野口雨情メドレー)	かなりや (鳥メドレー)	どんぐりころころ (村の思い出メドレー)
雨がふります (雨メドレー)	かもめの水兵さん (童謡メドレー 2)	とんがり帽子
雨ふり (雨メドレー)	かわいい魚屋さん (童謡メドレー 2)	どんな色が好き
雨ふりお月さん (雨メドレー)	汽車	七つの子 (鳥メドレー)
あめふりくまのこ	汽車ポッポ	日本昔ばなし
アルプス一万尺	気のいいがちょう (ヨーロッパ民謡メドレー)	庭の千草
あわてんぼうのサンタクロース	きらきら星	にんげんっていいな
アンパンマンのマーチ	金太郎 (おとぎ話メドレー)	ねこふんじゃった
池の鯉 (かわいい動物メドレー)	靴が鳴る (冬の歌メドレー)	はじめの一歩
1月1日	クラリネットこわしちゃった	鳩 (鳥メドレー)
いちじくになじん	ゲゲゲの鬼太郎	鳩ポッポ (鳥メドレー)
いちねんせいになったら	こいのぼり (5月メドレー)	ハッピーバースデー
一寸法師 (おとぎ話メドレー)	黄金虫 (かわいい動物メドレー)	花いちもんめ
いっぽんでもニンジン	この木なんの木	花咲かじいさん (おとぎ話メドレー)
いとまきまき (童謡メドレー 1)	こぶたぬきつねこ (動物メドレー)	春が来た (春メドレー)
犬 (かわいい動物メドレー)	こんには	春の唄 (春を寿ぐ)
いぬのおまわりさん (童謡メドレー 2)	こんには赤ちゃん	春の小川 (春メドレー)
雨夜花 (ウーヤー・ホウ)	さくら	春よこい
歌の町	サザエさん	パンダうさぎコアラ (動物メドレー)
うさぎ	サっちゃん	ひばり (鳥メドレー)
うさぎとカメ (おとぎ話メドレー)	里の秋 (秋の抒情詩)	ひょっこりひょうたん島
うさぎのダンス (野口雨情メドレー)	さんぽ	ひらいたひらいた (わらべうたメドレー)
牛若丸 (おとぎ話メドレー)	幸せなら手をたたこう	ピンシャンソング (元気に楽しく)
うみ	シャボン玉 (野口雨情メドレー)	ふじの山
海	ジングルベル	まっかな秋
浦島太郎 (おとぎ話メドレー)	ずいずいずつころばし	ママがサンタにキッスした
うめいひなまつり	すうじのうた	みかんの花咲く丘
エーデルワイス	雀の学校 (鳥メドレー)	南の鳥のカメハメハ大王
江戸子守唄	背くらべ (五月メドレー)	虫のこえ (かわいい動物メドレー)
エリーゼのために	線路は続くよどこまでも	むすんでひらいて (童謡メドレー 1)
おうま (おうまメドレー)	ぞうさん	村の鍛冶屋 (村の思い出メドレー)
大きな栗の木の下で (童謡メドレー 1)	たいこのおけいこ	めだかの学校 (童謡メドレー 2)
大きな古時計	たこくさま (歴史唱歌メドレー)	めんこい仔馬
大さむ小さむ (わらべうたメドレー)	たきび	紅葉
お猿のかごや	たなばたさま	桃太郎 (おとぎ話メドレー)
お正月	たのしいね	森のくまさん
おつかいありさん	だんご3兄弟	やぎさんゆうびん
おどるボンボコリン	小さい秋みつけた (秋の抒情詩)	山の音楽家 (お山の唄メドレー)
おなかのへるうた	茶つみ (五月メドレー)	ゆうびんやさん
おはなしゆびさん	ちようちょ	夕焼小焼
おはよう	月の沙漠	ゆかいに歩けば
お星様 (村の思い出メドレー)	鉄腕アトム	雪
おもちゃのチャチャチャ	手のひらを太陽に	ゆりかごのうた (あの日のメドレー)
おもちゃのマーチ	てるてる坊主 (雨メドレー)	WAになっておどろろ
お山のお猿 (お山の唄メドレー)	てをたたこ	われは海の子
お山の杉の子 (お山の唄メドレー)	手をたたきましよう (童謡メドレー 1)	
おんまはみんな (おうまメドレー)	どこかで春が	



#### 難聴ベビー外来

埼玉県立小児医療センターでは、難聴児を持つ両親に対して、様々な問題を考えながら、勉強していただくために月1回、計12回のコースを予定しています。内容は医師・言語聴覚士（ST）からの話や看護師との育児や生活一般に対する相談、ボランティアの方々による音楽を使いながら学ぶことを目的とした音楽療法などです。

埼玉県立小児医療センター難聴ベビー外来ではご質問に対して電話で対応しています。

TEL：048-758-1811

#### 音楽療法のお問い合わせ

財東京ミュージック・ボランティア協会

〒187-0001

東京都小平市大沼町1-14-10

FAX：042-343-5785 TEL：042-343-2596

ホームページ：http://www.tmva.or.jp

E-mail：tmva@kb3.so-net.ne.jp



「この事業は、競艇の交付金による日本財団の  
助成金を受けて実施しました」